

<報告>筑波大学アスレチックデパートメント発足の経緯とその足跡

著者	高木 英樹, 山田 晋三, 佐藤 壮二郎
雑誌名	大学体育研究
巻	42
ページ	37-46
発行年	2020-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00159927

筑波大学アスレチックデパートメント発足の経緯とその足跡

高木英樹¹⁾, 山田晋三¹⁾, 佐藤壮二郎¹⁾

The launch of Athletic Department in the University of Tsukuba and its activity status

Hideki TAKAGI¹⁾, Shinzo YAMADA¹⁾, Sojiro SATO¹⁾

I. はじめに

2018年4月に筑波大学アスレチックデパートメント(AD)が正式発足して2年が経とうとしている。この2年弱の間に、いわゆる日本版NCAAと呼ばれる一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)が発足(2019年3月)し、大学スポーツの活性化が話題となり、いくつかの大学においてADが設立される一方、大学スポーツにおける不祥事が相次いで発生してマスコミの注目を集めるなど、大学スポーツに関する光と影が鮮鋭化した。筑波大学ADにおいては、AD発足後、手探りの2年間であったが、ようやく目指すべき方向性が見えてきたので、これまでの筑波大学AD発足の経緯とその足跡について報告する。なお、本報告書は、スポーツ庁委託事業「大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版NCAA)創設事業」に関する平成29年度¹⁴⁾及び平成30年度¹⁵⁾の報告書を参照して作成した。

II. 大学スポーツの振興と産業化に関する社会的背景と政策決定過程

筑波大学AD発足に至るまでの大学スポーツの振興と産業化に関する様々なイベントを時系列で表1にまとめた。第2次安倍政権発足後、いわゆるアベノミクスの「三本の矢」の「第三の矢」として日本経済再生本部が策定した日本再興戦略において、2015年度改訂版(2015年6月)の中に、「スポーツを産業の創出・育成につながるビジネスシーズと捉え、地域経済の活性化や新たなビジネスモデルの展開などにもつながるよう、様々な取組を促していく」という文言が盛り込まれた。続く2016年度の改訂版(2016年6月)には、スポーツの成長産業化の一環として、「大学スポーツ振興に向けた国内体制の構築」が政策課題として位置づけられた。これらの政策決定と軌を一にして、経済産業省はスポーツ庁と共同で「スポーツ未来開拓会議」を開催(2016年2月)し、2016年6月には「スポーツ未来開拓会議中間報告～スポーツ産業ビジョンの策定に向けて～」が公表²⁾されている。一方、スポーツ庁も「大学

1) 筑波大学アスレチックデパートメント

Athletic Department in the University of Tsukuba

スポーツの振興に関する検討会議」の第1回会合を2016年4月に開催し、それ以降計5回の会合が持たれて、「大学スポーツの振興に関する検討会議最終とりまとめ～大学のスポーツの価値の向上に向けて～」が2017年3月に公表⁸⁾された。この最終とりまとめにおいては、「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）の在り方」に関する提言がなされ、これ以降日本版NCAAの設立に向けた取り組みが産官学の協力のもと加速する。加えて、最終とりまとめの中で、検討課題として以下の7項目が挙げられ、1. 大学トップ層の理解の醸成、2. スポーツマネジメント人材育成・部局の設置、3. 大学スポーツ振興のための資金調達力の向上、4. スポーツ教育・研究の充実や小学校・中学校・高等学校等への学生派遣、5. 学生アスリートのデュアルキャリア支援、6. スポーツボランティアの育成、7. 大学のスポーツ資源を活用した地域貢献・地域活性化、特に2番目の項目に関しては、米国大学のADをモデルとしたスポーツ分野を統括する部局を大学内に設置する必要性について提言している。そしてこの提言実現に向けた具体的な施策として、スポーツ庁は「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）創設事業」の公募を行い、2017年9月に筑波大学を含む8大学（青山学院大学、大阪体育大学、鹿屋体育大学、順天堂大学、筑波大学、日本体育大学、立命館大学、早稲田大学）を選定し、大学スポーツ・アドミニストレーターの配置や先進的モデルの形成の促進を図ることとなった。その後、2018年度は15大学、2019年度は13大学が選定され同事業が展開されている。

以上様々な会議体での議論を経て、当初の目標であった日本版NCAAと言われる「一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）」が次のような理念を掲げ、「大学スポーツの振興により、『卓越性を有する人材』を育成し、大学ブランドの強化および競技力の向上を図る。もってわが国の地域・経済・社会のさらなる発展

に貢献する」、2019年3月1日に設立された。UNIVASの初代会長として早稲田大前総長、鎌田薫氏が就任し、顧問には元日本サッカー協会会長の川淵三郎氏、副会長には元女子マラソン選手の有森裕子さんらが就いた。発足当初の陣容として、197の大学と31の競技団体等が加盟の意思を表明したが、筑波大学は加盟を見送る決定をした。

Ⅲ. 筑波大学AD発足に向けた学内での取り組み

筑波大学では、スポーツ庁の動きを先取りする形で、すでに2010年からトップアスリートの育成・広報・社会貢献に取り組む全国初の大学組織として「筑波大学スポーツアソシエーション（TSA）」を設立し¹⁰⁾、体育会所属チームのユニフォーム・カラーを統一させるなど、これまでも大学スポーツの価値向上に積極的に取り組んできた。このような先進的な取り組みに対して、米国アンダーアーマーを日本で展開する株式会社ドームは、賛同・支援の意を示し、筑波大学との間で2016年10月に包括協定¹¹⁾を締結した。本協定には、筑波大学とアンダーアーマー（株式会社ドーム）がパートナーシップを組み、体育会各部の運営におけるモデルケースの確立および大学スポーツの産業化を目指すことが謳われている。さらに本協定では、既に米国アンダーアーマーと連携して大学スポーツの産業化を実現しているテンプル大学と「日本の大学スポーツに関する調査」というテーマで共同研究を行うこととなり、大学スポーツが抱える健康リスク、法的リスク、財務リスクの管理・統治方法について検討し、日本の大学における理想的なスポーツ部局のあり方を継続的に議論することになった。

そして本共同研究に関しては、2016年12月にテンプル大学ジャパンキャンパスにおいて中間報告会⁹⁾を、さらに2017年3月にはアメリカンセンターJAPANにおいて、「Japan College Sport Research Project・米国大学における学生競技者に対する教育マネジメントの現状分析

表1 アスレチックデパートメント発足まで（2015年6月～2018年4月）の経緯

年月日	イベント	備考
2015/06/30	「日本再興戦略」改訂 2015－未来への投資・生産性革命－（新たに講ずべき具体的施策）	内閣府主催の科学技術・学術審議会において、第2次安倍内閣の成長戦略として改訂版が発行される。
2016/02/02	スポーツ未来開拓会議（第1回）開催	経済産業省とスポーツ庁が共同でスポーツ産業の活性化に関して検討をおこなう会議が設置された。
2016/04/30	大学スポーツの振興に関する検討会議（第1回）開催	スポーツ庁主導により、日本の大学スポーツの振興策を検討するための会議が設置された。
2016/06/02	日本再興戦略改訂 2016 -第4次産業革命に向けて-	成長戦略の一環として、スポーツの産業化が盛り込まれ、大学スポーツ振興に向けた国内体制の構築が政策課題として位置づけられた。
2016/11/15	筑波大学×アンダーアーマー（株式会社ドーム）包括的パートナーシップ協定を締結	スポーツを通じて社会、地域、学生生活をより豊かにすることを共通の大義とし、スポーツの産業化や国民の健康増進、未来を支える人材の育成に資することを目的として、「日本の大学スポーツに関する調査」を開始
2016/12/16	筑波大×米国テンプル大×アンダーアーマー 大学スポーツ日米共同研究 中間報告会を開催	「日本の大学スポーツに関する調査」の中間報告会をテンプル大学ジャパンキャンパスで開催
2017/03/23	「スポーツイノベーション開発研究センター」の設立を表明。	スポーツ産業の活性化、スポーツ・アドミニストレーターの育成、国際共同研究や企業との共同研究を目的とし、センター長に山田幸雄体育系教授を任命。2017年4月1日付けで、正式発足。
2017/03/29	アメリカンセンターJapan において Japan College Sport Research Project の研究成果を発表	「米国大学における学生競技者に対する教育マネジメントの現状分析～日本版大学体育局（AD）モデルの構築に向けて～」というテーマで研究成果を発表
2017/08/01	「筑波大学アスレチックデパートメント設置準備室」を設置	AD 設置準備室の TDA (Transitional Director of Athletics) として、株式会社ドームの安田秀一代表取締役を客員教授として任命。
2017/09/15	「大学スポーツ振興の推進事業」（スポーツ庁）に筑波大学の取組が採択	大学スポーツ・アドミニストレーターの配置等大学におけるスポーツ活動を支援する「大学スポーツ振興の推進事業」に筑波大学を含む8大学が選定された。
2018/01/16	NCAA Convention 2018 (Indianapolis) において Japan College Sport Research Project のセミナー開催	NCAA やカンファレンス、大学に従事する様々な専門家によるセッションを通して、日本版 NCAA や大学の AD の開設に関する有用な知見を得ることを目的としてセミナーを開催
2018/03/07	大学スポーツ日米共同研究フェーズ II 最終報告会を開催	テンプル大学ジャパンキャンパスにおいて、「大学スポーツ振興に関する共同研究フェーズ II」の報告会が行われた。
2018/04/01	筑波大学 AD を設置	

～日本版大学体育局（AD）モデルの構築に向けて～」というテーマで最終報告会¹⁾を開催している。本最終報告会では、日米で実施した

大学スポーツの歴史や現状に関する調査結果を踏まえ、日本における AD の組織作りを4つのステージに分けて提案した。具体的には、AD

は、学長直轄の組織として設置し、暫定アスレチックディレクター（Transitional Director of Athletics）」を中心に、組織ミッションやビジョンの作成など、組織の基礎作りを行う。その後、正式にアスレチックディレクター（Director of Athletics）、副アスレチックディレクター（Associate Athletic Directors）を任命し、ADのさらなる組織化及びスポーツプログラムの拡大を図っていくロードマップが示された。

この最終報告会と連動した筑波大学内での組織改革として、2017年3月23日に「スポーツイノベーション開発研究センター」を産学連携本部下の組織として設置することが公表¹²⁾された。本センターは、日本版ADの筑波大学における設置・推進と日本版NCAAの創設を支援し、スポーツ産業の活性化、スポーツ・アドミニストレーターの育成、国際共同研究や企業との共同研究の推進を図り、持続的な日本の活性化を目指すとともに、大学における学生への教育的支援の充実に資することを目的とした組織である。

スポーツイノベーション開発研究センターが設置された時期は、折しもスポーツ庁によって「大学スポーツの振興に関する検討会議・最終とりまとめ」が公表された直後であり、スポーツ庁の政策に沿う形で筑波大学内におけるAD設置に向けた作業が加速していった。そしてスポーツ庁が大学等を委託先として公募した（2017年6月）「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）創設事業」に対して筑波大学も応募し、その結果、取り組みの独自性や実現可能性が評価され、前出の7大学とともに、筑波大学の取り組み⁵⁾が採択（2017年9月）されるに至った。さらに本事業の公募から採択に至る間にも、筑波大学は独自の取り組みを進め、「アスレチックデパートメント設置準備室」をJapan College Sport Research Projectの最終報告書¹⁾の記載に沿う形で、学長直轄の組織として2017年8月に設置し¹³⁾、暫定アスレチックディレクターとして、安田秀一株式会社ドー

ム代表取締役を客員教授待遇で任命した。

アスレチックデパートメント設置準備室の開設以降、9月には外部から異なる専門分野を持つ山田晋三氏と佐藤荘二郎氏の2名のスポーツ・アドミニストレーターを招聘し、さらに大学院生や他学群の教授陣も加えながら、2018年4月のAD正式発足に向けて、全学的な取り組みとしてプロジェクトを実行していった。その具体的な取り組みとして、まず大学の象徴となる「スポーツエンブレム」(図1)の策定を行った。

スポーツエンブレムの作成に関しては、筑波大学芸術専門学群の協力を仰ぎ、体育専門学群や体育会などの枠を超え、大学が一体となってこれを創作する枠組みを作った。その結果、筑波大学のスポーツを学内外に伝えていくためのシンボルとして、校章である「五三の桐」の伝統・硬質さ・まじめさを基調とし、「IMAGINE THE FUTURE.」という大学が掲げるスローガンに込められた未来構想・新しいフォルム・創造性等のコンセプトを併せ持ち、逆三角形の力強いたたずまい、トロフィーのようなずっしりとした重厚感、そして未来に向かって切り進むスピード感を表現したデザインが出来上がった。

次に筑波大学における体育会運動部活動の抱



図1 新たに作成された筑波大学スポーツエンブレム

える現状の課題を把握・共有することを目的として、各運動部の指導者を対象としたアンケート調査を実施した。アンケートの内容は、「安全対策・リスク管理」、「成績管理や学業支援」、「会計」、「コンプライアンス」、「監督・コーチの処遇や選手の勧誘」、「スケジュール」、「広報」、「施設」について質問をし、各運動部活動の現状と課題を把握した上で、集約したデータに基づいて具体的な対策を検討した。

その後、継続的な運動部に対する面談やアンケート調査、練習見学などを経て、米国の大学のADをモデルとして「チームスポーツ」で「球技」、さらに男女を持つチームを優先しながら、「大学の価値を高めるために一緒に取り組んでいきたい」という強い意思を持った指導者のいるチームを中心に、競技力や発信力を加味しながらADに参加するチームの選定を行った。その結果、「男子ハンドボール」、「女子ハンドボール」、「硬式野球」の3チームが筑波大学ADの設立と同時に「ADチーム」となり、「男子バレーボール」、「女子バレーボール」についても準備期間を経てその後ADチームとして追加された。

そして2017年12月5日には、学長、各部の部長および監督の出席のもと、男子ハンドボール部、女子ハンドボール部、硬式野球部とアスレチックデパートメント設置準備室との間で、各部がアスレチックデパートメントによって提供される支援とADに対して負う義務について明記した「合意書」に署名を行う調印式を執り行った。

ADチームが選出された後、まず「ADは学生たちに何を提供すべきか」を明らかにする「ビジョン」「ミッション」の策定に取り掛かった。2017年末より2018年1月にかけて、筑波大学副学長、アスレチックデパートメント設置準備室、ADチーム指導者および学生アスリートで意見を出し合い、筑波大学ADの「ビジョン」と「ミッション」について4度に渡って議論を重ね、多様なバックグラウンドを持った参

加者の様々な意見の中から「ビジョン」と「ミッション」の中核となる概念やキーワードを抽出した。

まず「ビジョン」については、未来を構想し、その実現に挑むフロントランナーとして「日本中のモデルであり続ける」ということに加え、ADがつくばの研究や地域を繋ぐ「架け橋」となって欲しいという思いを込め、さらに筑波大学のスローガンである「IMAGINE THE FUTURE。」を盛り込むことに関して、参加者の総意が得られた。

また「ミッション」については、「ADが学生に何を提供するのか」あるいは「使命として何を掲げるのか」が明示されるべきとされ、これらについては、「心身共に充実した学生生活」を提供し、「筑波大学に来てよかった」、「より成長することができた」と学生に感じてもらうようにするということがADの「使命」となるとの結論に至った。「心身共に」という言葉については、米国NCAAの「ミッション」として示された「Well-Being」を参考にしており、「心」も「体」も「安全対策」も含めて充実した学生生活を送れるようにという意味合いが込められている。

また学生から「繋がり」というキーワードが挙げられ、ADを通して様々な繋がりを学内外に提供していくということが大切であり、部の壁を越えた学生アスリートの交流や一般学生との繋がり、あるいは地域や企業関係者との繋がりを構築することによって、大学の持つ資源の価値や可能性を最大化することが、ADの大きな「使命」であろうという結論に達した。

加えて人材育成面では、「師魂理才」というキーワードが挙げられた。これは筑波大学の人材育成における基本理念を示したものであり、「親や先生のように人に接する心や人々をまとめる力を持ち、かつ合理的な問題解決の才能を持つこと」を意味したものである。ADにおいても、この「師魂理才」の精神を持って、人材育成に取り組むべきとの結論に至った。

また2018年1月には、筑波大学、テンプル大学、ドーム社との共同研究プロジェクトとして進めてきたJapan College Sport Research Projectの研究成果に基づいてディスカッションするセミナーを、2018年1月16～20日に、インディアナポリスにて開催された「NCAA Convention 2018」の会場内で実施した。詳しくは、松元らによる報告書³⁾に譲るとして、本セミナーには、アスレチックデパートメント設置準備室のメンバーの他、日本版NCAAの設立準備局の担当者および日本の大学でADの設置を検討している大学関係者などが参加し、NCAAの役割や機能、組織構造について理解を深めるセッション(1日目)や、AD、カンファレンス、コミュニティ、教員などとの関わりについて理解を深めるセッション(2日目)を開催したほか、インディアナ大学・パデュー大学インディアナ校にて、スポーツチームが利用するトレーニング施設やスタジアム、アリーナなどを視察し、施設の管理や運営方法について質疑を行い、米国の大学におけるスポーツ施設の状況について理解を深め、本場アメリカの大学スポーツの実情に関する情報収集を実施した。さらに、2018年3月には、テンプル大学ジャパンキャンパスにおいて、「大学スポーツ振興に関する共同研究フェーズII」の報告会が行われ、筑波大学AD発足に向けた具体的な提言等がなされた。

IV. AD 正式発足およびその後の活動履歴

アスレチックデパートメント設置準備室の設立後、8ヶ月の準備期間を経て、2018年4月1日に筑波大学ADは正式発足した。2018年4月からのADの組織体制については、図2に示すように産学連携本部内に設置され、産学連携本部長の直轄部局で、かつ学長の意思が反映される組織として位置付けられた。またAD内には、アスレチックディレクター(山田幸雄体育系教授)と副アスレチックディレクター(山田晋三氏)の役職が配置され、その下に渉外部門、

学内業務部門、スポーツ運営部門の3つの部門が置かれ、それぞれ図2下に示すような業務を担当することとなった。

また既に雇用されていた2名のスポーツ・アドミニストレーターに関しては役割分担を明確化し、山田晋三氏は副アスレチックディレクターを務めながら、主に部活動のマネジメントおよび学内連携に責任を持ち、佐藤荘二郎氏は学内の一般学生や地域、学外団体を意識したマネジメントを担当することとなった。この両アドミニストレーターが、それぞれの分野を主導しながら、相互に連動する形をとる体制を整えられたため、内部的活動から広報までがスムーズに連動するようになった。

発足以後の具体的な活動履歴に関しては、表2に時系列にまとめて示す。トピックスとしては、2018年5月より、筑波大学AD所属のアスレチックトレーナーとして山元勇樹氏(日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナー)を採用し、各部のアシスタントトレーナーや監督と連携し、より安全で健全な大学スポーツを実現するための陣容を整えた。また2018年10月より「自由科目(特設)」として、「スポーツが変われば、大学が変わる」という科目名で全学対象の授業(秋AB, 10回)を開講した。本授業には、安田秀一(ドーム代表取締役CEO)、三沢英生(東大アメフト監督)、落合陽一(筑波大学学長補佐)などの多彩な講師陣によって授業が展開され、大学スポーツの価値や学内で進んでいる大学スポーツ改革の実態を学ぶ良い機会となった。さらに芸術専門学群生の協力を得て筑波大学ADチームのニックネームおよびマスコットキャラクターの制作に取り組み、最終候補作品の3作品ができ上がり、その中から学生アスリート、学長・副学長、一般学生・教職員の3つの投票枠を設けて、投票を実施したところ、ニックネームとして「OWLS(アウルズ)」、マスコットキャラクターとして「コズミくん」が最多得票を集めて選出され、以後ADチームの試合時の応援や各種SNSにおけるPR

2019年度 国際産学連携本部体制

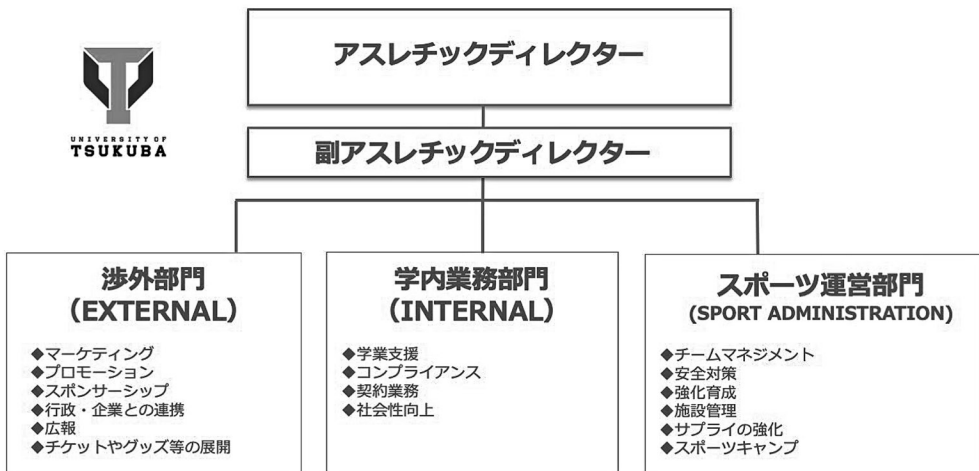
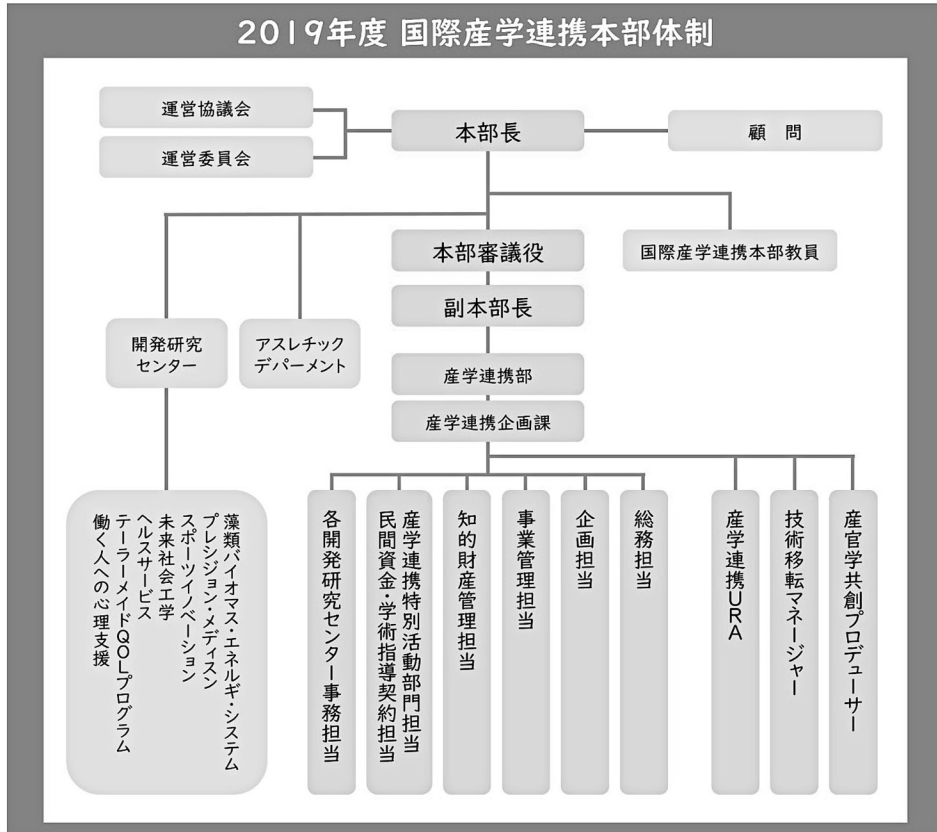


図2 筑波大学 AD の位置づけ及び内部組織図

活動に一役買っている。

その他、AD 正式発足後の重要なトピックスとして、2019年3月に設立された一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS) に筑波大学が

参加することを見送ったことが挙げられる。前述のごとく、筑波大学はスポーツ庁などと連携し、日本版 NCAA の設立に向けて共に構想を練り、行動をともにしていたが、結果的に筑波

表2 筑波大学 AD 発足後の活動履歴

年月日	イベント	備考
2018/04/01	筑波大学 AD 正式発足	初代アスレチックディレクターに山田幸雄体育系教授、副アスレチックディレクターに山田晋三氏が就任。AD チームとして、男女ハンドボール部、硬式野球部が参画。
2018/05/16	筑波大学と東京大学が合同でシンポジウム開催	筑波大学と東京大学が米テンプル大学を招いて「未来の大学スポーツ」というテーマでシンポジウムを開催
2018/06/15	筑波大学 AD 主催緊急シンポジウム開催	大学のアメリカンフットボールの試合中に起きた危険タックル事件に端を発した大学スポーツに関するガバナンス問題について、東京キャンパスにおいてシンポジウムを開催した。
2018/08/25	まつりつくば 2018 を AD チーム選手およびサポーターが支援	つくば市民との一体感醸成のために、まつりつくば 2018 に参加し、ねふたを曳くなどして、市民との繋がりを創出した。
2018/10/01	秋 AB 自由科目開設として「スポーツが変われば、大学が変わる」を開講	全学の学生対象に筑波大学内で進行している大学スポーツ改革を主要テーマとして、多彩な講師陣による講義が行われた。
2018/10/09	筑波大学 AD に男女バレーボール部が新たに参画	
2018/11/10	神宮大会における本学硬式野球部の応援のために AD 主催のバスツアーを企画	大型バス 4 台でつくばから応援に駆けつけ、永田恭介学長も観戦。神宮球場に応援歌「桐の葉」がこだましました。
2019/01/10	AD リーダー研修プログラム開催	筑波大学 AD 所属チームの選手を対象に、筑波大学の掲げる人材育成マインド「師魂理才」を持ったリーダー育成を目的として、リーダー研修プログラムを開催
2019/02/23	TSUKUBA ATHLETIC AWARDS 2018 開催	学業及び競技成績において優れた成果を挙げた学生を表彰する TSUKUBA ATHLETIC AWARDS をグランド東雲にて開催した。
2019/03/20	「大学スポーツ改革」シンポジウム開催	筑波大学東京キャンパスにおいて、「学校スポーツの現在地と思い描く未来」と題するシンポジウムを開催。
2019/03/12	ハワイ大学へのスタディーツアーに AD 所属選手が参加	ハワイ大学 AD を表敬訪問し、情報収集すると共に、バレーボールの試合を観戦
2019/04/01	アスレチックディレクターの交代	山田幸雄氏に代わって、高木英樹体育系教授が 2 代目アスレチックディレクターに就任
2019/05/15	日米学生アスリート(SA) 合同シンポジウム開催	筑波大学において、テンプル大学所属の学生アスリートと筑波大学の学生アスリートがお互いにプレゼンテーションを行い、交流を深めた。
2019/07/05	中京大学との共催で大学スポーツ改革シンポジウムを開催	先進的な取り組みをしている 4 大学による事例発表と学校スポーツの将来像を議論するためのシンポジウムを中京大学において開催した。
2020/01/24	米国アナハイムで開催された 2020 NCAA Convention に参加	筑波大学 AD スタッフに加え、他大学のスポーツ部局関係者および学生の総勢 20 名が参加。

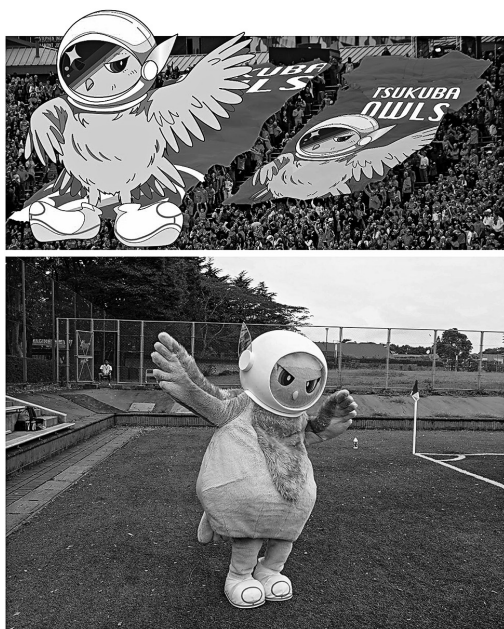


図3 筑波大学ADのマスコット(コズミくん)

大学がUNIVASに参加しなかった理由について触れておく。UNIVASに参加するか否かの最終決定を下す権限を持つのは、学長であり、今回の不参加を決定するにあたって、学長はADチームの監督はもとより、筑波大学体育会系クラブを指導する大多数の指導者の意見を参考にした。その上で、UNIVAS参加を見送った理由として、メディア（日本経済新聞2019年3月1日）の取材に対して以下のように回答している。

「各競技の学生競技連盟（学連）が大学と同格の正会員になっている。UNIVASは学生の成長を一番に考える組織のはず。それなら各学校長が主体になるべきだ。学連が学生のことを考えないとは言わないが、中央競技団体の傘下であり、どうしても試合実施が優先し、競技力アップが目的になる」

「日本高野連は投手の球数制限を提案した新潟県高野連に再考を求めた。あれが各校の校長が生徒の健康や将来を考えての提案だったとしたらどうか。もし高野連が拒否したら絶対に筋が通らない。大会の円滑な運営のためにできた組織が、なぜ学校や学生を支配する権威となる

のか。大学スポーツと学連の関係も同じ構図がある」

つまり、本来大学スポーツ協会は、大学スポーツの改革に取り組む意思のある大学の集合体であるべきだが、実態は大学と競技団体が加盟し、並列の関係に置かれている。それでは、学生の安全安心や学業両立を優先した取り組みができないところに問題があると学長は指摘した。当時のADスタッフは、学長の主張に一理あるとする考えと、UNIVASの中に入って内から改善すべきではとの考えもあったが、最終的には、筑波大学はこれまでの研究成果や積み上げてきた議論をもとに、理想の大学スポーツのあり方を追求することを選択し、UNIVAS不参加を決定したわけである。しかしながら、UNIVASが掲げる理念と筑波大学ADの理念には大きな隔たりはなく、今後もUNIVASと協働しながら、大学スポーツの改革に取り組む姿勢に変わりはない。

V. おわりに

筑波大学ADの発足に関わる社会的背景とその足跡について概観したが、今まで日本になかったものを創出するという事は並大抵の事ではなく、関係したすべての方々の苦労が伺われる。AD発足は、筑波大学の長きにわたるスポーツ部活動の歴史において、おそらく開学以来のエポックであり、さらに日本の大学スポーツにおいても、今後多大な影響を及ぼしていくに違いない。我々の目指す大学スポーツの健全化と大学スポーツ価値の最大化に向けて、筑波大学ADは今後も歩みを続けるが、我々の残した足跡が大学スポーツの改革の方向性を示す道標となることを願うものである。

文献リスト

- 1) アメリカンセンター Japan：アメリカ大使館協力シンポジウム：米国大学における学生競技者に対する教育マネジメントの現状分析～日本版大学体育局（AD）モ

- デルの構築に向けて～, 2017年3月29日, <https://americancenterjapan.com/event/201703295035/>
- 2) 経済産業省, スポーツ庁: スポーツ未来開拓会議中間報告～スポーツ産業ビジョンの策定に向けて～. <https://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160614004/20160614004-1.pdf>, 2016年6月20日
 - 3) 松元 剛, 松尾博一, 山田幸雄: Japan College Sport Research Project-NCAA Convention 2018におけるセミナー. 大学体育研究, 40: 75-81, 2018
 - 4) 文部科学省: スポーツ基本計画. 2017年3月, https://www.mext.go.jp/sports/content/1383656_002_300000714.pdf
 - 5) 文部科学省: 大学スポーツ振興の推進(筑波大学の取組). https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/29/09/_icsFiles/afieldfile/2017/09/14/1395745_006_1.pdf, 2017年9月14日.
 - 6) 文部科学省: 平成30年度国立大学改革強化推進補助金計画調書(筑波大学). https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/10/19/1410223_4.pdf, 2018年10月19日,
 - 7) 内閣府: 日本再興戦略2016. https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2016/0602/shiryu_04-1.pdf, 2016年6月2日.
 - 8) スポーツ庁: 大学スポーツの振興に関する検討会議最終とりまとめ～大学のスポーツの価値の向上に向けて～. https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/03/10/1383246_1_1.pdf, 2017年3月10日.
 - 9) テンプル大学ジャパンキャンパス: 筑波大 x 米国テンブル大 x アンダーアーマー 大学スポーツ日米共同研究 中間報告会を開催. <https://www.tuj.ac.jp/jp/news/2016/12/19/tuj-hosts-college-sport-joint-research-project/>, 2016年12月19日
 - 10) テンプル大学ジャパンキャンパス: 大学スポーツ日米共同研究フェーズII最終報告会を開催～筑波大 x 米テンブル大 x ドーム(アンダーアーマー). <https://www.tuj.ac.jp/jp/news/2018/04/04/the-japan-college-sport-phase-ii-final-report/>, 2018年4月4日
 - 11) 筑波大学: 「筑波大学スポーツアソシエーション」の設立について. https://www.tsukuba.ac.jp/public/press/100722press_01-1.pdf, 2010年7月23日.
 - 12) 筑波大学: 筑波大学 x アンダーアーマー(株式会社ドーム) 包括的パートナーシップ協定を締結. <https://www.tsukuba.ac.jp/news/n201611151200.html>, 2016年11月15日.
 - 13) 筑波大学: スポーツイノベーション開発研究センターを設立. <https://www.tsukuba.ac.jp/news/n201703231754.html>, 2017年3月23日.
 - 14) 筑波大学: 「アスレチックデパートメント設置準備室」を設置. <https://www.tsukuba.ac.jp/news/n201708021337.html>, 2017年8月1日.
 - 15) 筑波大学: スポーツ庁委託事業: 成果報告書. https://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/a_menu/sports/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/14/1406134_007.pdf, 2018年6月14日.
 - 16) 筑波大学: 平成30年度「大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版NCAA)創設事業」筑波大学成果報告書. https://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/a_menu/sports/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/12/1417767_15.pdf, 2019年6月12日.